

# 溶連菌感染症についてお話しします。

## ● はじめに

A群β溶血性連鎖球菌(以下溶連菌)による感染症です。例年冬から春にかけて流行しますが、年間を通じてみられ、2014年後半より患者数が増加しています。

## ● 臨床症状

2～5日の潜伏期間を経て、突然の発熱、全身倦怠感、頭痛、咽頭痛により発症します。小児では嘔気、嘔吐、腹痛をしばしば伴うため、感染性胃腸炎の初期症状と間違われることがあります。舌の表面にぶつぶつができる莓舌が特徴的で、頸部リンパ節腫脹や中耳炎の合併もあります。溶連菌の産生する毒素により、発疹や蜂窩織炎などの化膿性皮膚病変をきたしたり、1～3週後に糸球体腎炎やリウマチ熱を併発することがあります。

## ● 診断・治療

咽頭をぬぐって、迅速診断キットで検査をします。10分以内に結果が得られます。ペニシリン系の抗生剤を10日から2週間内服する治療が一般的です。



## ● 免疫力を高めて予防

卵のシスチン、お茶のテアニンというアミノ酸は、自然免疫力を高めてくれます。オリゴ糖製食品や味噌、納豆、ヨーグルトなどの発酵食品は、腸内環境を整えるため、健康維持につながります。わかめ、モスク、昆布などの海藻のめり成分、フコイタンは、鼻や口、喉からウイルスなどが侵入するのを防いだり、免疫細胞を活性化します。また、生姜、しめじ、えのきだけ等キノコ類のβ-グルカンやビタミンA、C、Eの摂取も大切です。

## ● おわりに

溶連菌は免疫ができていく以上に、種類が違つとまた感染します。体内に保菌しているものが、体力が落ちたときに再発する場合もあります。年齢とともに抵抗力がつき、再発を繰り返すことは少なくなつてきます。バランスのとれた食事をする、運動して体力、抵抗力をつけること、そして十分な睡眠をとります。

## ● 家庭での注意

のどが痛いときは熱いもの、辛いもの、すっぱいものを避け、消化のよいものに。食欲がなければしっかりと水分をとります。熱がなければ入浴はかまいませんが、熱があるときは体をふくだけに、微熱のときでもさつとシャワーをするだけにしましょう。家族で同様な症状があれば、受診して検査を受けましょう。患者との濃厚接触、コップ、タオルの共有を避けること、うがい、手洗い、マスクを用いた予防が有効です。



野村 真二院長

平成22年9月に小児科開業、平成23年4月に病児保育室を開設。未熟児新生児医療の経験を生かして、心をこめて診療、子育て支援を行っています。

# こころ・チャイルド・クリニック

Cocoro child clinic

4階の病児保育室ちゅんちゅんもご利用下さい

お問い合わせはtel.082-848-6619まで

### ● 診療日・時間

9:00～12:00

○

○

○

○

○

○

○

14:00～18:00

○

○

○

○

○

△

14:00～15:00に乳児健診、予防接種を行っています。  
△17:00まで【休診日】日曜・祝日



### DATA

広島市安佐南区伴南  
1丁目5-18-8-301  
西風新都ゆめビル

tel.082-849-5519

### ACCESS

広島バス「こころ産業団地」  
「こころ西公園」行き  
「こころ入り口」下車

